石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

石川県立看護大学の今を伝える広報誌［キャンパスネット］

CAMPUS NET

特集

看護の新たな学び方　本学が取り組む教学DX

「災害ボランティア・サークルふたば」による能登半島地震被災地支援の様子

石川県立看護大学
公式YouTubeチャンネル

大学紹介や学生生活、講義の風景など、石川県立看護大学の学びの特徴や魅力を発信しています。

vol.45
MAY
2024

令和6年能登半島地震に際して

学長　真田 弘美

このたびの令和６年能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

被害を受けられた皆様が一日も早く平穏な日常生活に復することをお祈り申し上げます。あわせて、現在多くの施設において、被災地の患者さんを受け入れ、ご尽力くださっている施設の皆様にも感謝と敬意を表します。

忘れもしない令和6年1月1日、地震のその時、私は高松の官舎におりました。すぐに大学に電話をして状況を確かめますと、閉じた門の前に多くの住民の方々が津波を心配されて来られていることを知り、すぐに門を開け、大学のベッドのある実習室に移動していただきました。実は当大学は原子力災害の避難所でありましたが、人命救助が第一ですので、皆さんに暖かくして時間を過ごしていただきました。

それからは、初動して、学生・教職員の安否確認を行い、全員が無事であることを確認し、その後は大学施設の損害等を確かめましたが、それが昨日のように思い出されます。学生の勉学に大きな影響が出ることを懸念したのですが、今回の看護師、保健師、助産師国家試験は全員合格することができました。奇跡のように感じています。

それから1月が過ぎ、激震地に最も近い大学として、また、看護大学としての使命として、県からの依頼もいただき、対策本部を置き、復旧活動を行ってきました。教職員・学生ばかりでなく、学会などからの資金の支援もあり、遠方からも褥瘡などを専門としている皮膚・排泄ケア認定看護師の派遣もしていただき、3月までには、褥瘡対策を除き、支援は終了いたしました。さらに能登を実家とする学生たちには、多くの寄付金が大学に寄せられ、これらに関しては心より御礼を申し上げます。

今後の能登の復興へは、大学全体で取り組む所存でおります。また、1000年に一度の激震災害を経験した大学として、今後は防災活動に力を入れた教育を現在検討中です。今後も被災地に寄り添い、震災からの復旧及び支援に全力を尽くすとともに前を向き従来からの計画であるDXにも最大限の力を入れ次世代看護職養成に尽力したいと思います。

看護の新たな学び方 本学が取り組む教学DX

石川県立看護大学のDX化の取り組み

学長　真田 弘美

社会はSociety 5.0に向けて、大きく変革しています。また、それを受けて、STEAM教育が推奨されるようになってきました。石川県では、高校生は全員にパソコンが無償で貸し出され教育の中でデジタル化が進み、中学校ではプログラミングの教育もはじまっています。これらは個々人が課題解決を、自立・自律して行くことを目的としています。このような世代の生徒たちを受け入れる大学として、彼らの持つ能力を最大限生かすためには、今後のDX教育は必須と言えます。

それでは、教育のDX化は何をもたらすのでしょうか？

それは、Dataの蓄積による個々の学生の教育の最適化であり、以下にまとめてみました。

1）学生のAutonomy(自立・自律)の涵養

- 繰り返し再現できる
- 時空を超える学習ができる

2）指導者側の効率化

- 人的資源の効率化が図れる
- 個々が時間を合理的に利用できる

3）現場のリアリティーショックに対応

- 病院のDX化（プログラミング）が可能となる
- ペーパーレス化、電子カルテ対応への時間の短縮
- 新しいコミュニケーション方法の獲得

4）現場のBigdataを扱える看護リーダー育成

では、当大学ではどのように4年間のカリキュラムがつくられているのでしょうか。右に図示してみました。

平居貴生教授作成

最後になりますが、看護学は忘れていけないことがあります。それは全人的にその人のニーズをとらえる能力です。看護学は、診断・治療を目的とする医学とは異なり、身体的、心理的、社会的に個人が希望する最適健康に向けてQOLの向上を支援する学問です。その人、その人を取り巻く環境を看て、最後まで護ることが使命といえます。DX教育は、それを支援する媒体だと考えてください。

紙媒体から『電子教科書』へ

教務委員長　桜井 志保美（在宅看護学 教授）

2023年度の入学生からペーパーレス授業が導入され、2026年度に全学年がペーパーレス授業となる計画です。このペーパーレス授業の取り組みの一つに電子教科書があります。2022年度の学生アンケート結果では、紙の教科書等一式を持ち運ぶにあたり、8割が「とても重い」と回答していました。一方、教員には、「電子教科書では書き込みができないのでは」等の不安がありました。教員向け研修やインターネット環境の強化を図り、4月に新入生を迎えました。学生は、既に学校教育で何らかのICT教育を受けていたことや普段の生活でスマートフォンなど情報端末機器に慣れていたこともあり、前期から大きな問題なく電子教科書を使っています。電子教科書を覗くと、アンダーラインが引かれ、メモが書き込まれていました。

学生は、どんどん新しいものを取り入れ・使いこなしていきます。今後も学生の力を引き出しながらデジタル化を進める予定です。

看護学実習のデジタル化を目指して

DX実習記録部会長 石川 倫子（基礎看護学 教授）

2023年度より実習記録の記載・保管を電子化する臨地実習支援システム®（以下、システム）を導入しました。このシステムの導入目的は、①学生が実習記録に費やす時間を減らし思考する時間をつくる、②実習記録の紛失リスクの防止、③学生がタイムリーに教員や実習指導者から実習記録の指導を受けることです。つまり、学習効率を上げて学習効果を生み出すことを目指しています。システムの導入にあたり、全教員に実習記録の電子化の必要性、システムの理解のために説明会を開催しました。また、情報漏洩防止等のためにシステム使用のルールを作成し周知しました。その上で、基礎看護学実習Ⅰから実習施設で学生と教員がシステムを使用しました。学生からは手書きより格段に早く記録を記載できたや教員の指導内容がすぐに確認できた、教員からは学生が指導を翌日の実習に活かしていたと好評でした。2024年度からは実習指導者も使用し、さらに学習効果につなげていきます。

学生に聞きました！

「電子化について」

2年生　政井 すずかさん　前川 愛さん
本田 麗果さん　齋藤 晴香さん

教員（聞き手）　中嶋 優太（哲学 講師）

中嶋：本日はお集まりいただきありがとうございます。2023年度から大学では教科書の電子化と、実習でのデバイスの使用をはじめました。こうした新しい試みについて、学生の皆さんが実際どう感じられているのかお聞きできればと思います。

■ 電子教科書について

中嶋：大学では、すべての教科書が電子化されましたので、基本的には紙の教科書は使用せず、すべての教科書を個々人のデバイスに入れて使われているとお聞きしています。ちなみに、大学に入る前には電子教科書を使ったことはありますか？

学生：ないです。

中嶋：それでは今年度、初めての体験だったのですね。使ってみてどう感じましたか？

本田：荷物が軽くなるし、すべての教科書がデバイスに入っているので忘れ物をする心配がなくなって、よかったです。

中嶋：荷物が軽くなるというメリットは予想していましたが、忘れ物がなくなる、というのはたしかにそうですね。

前川：電子教科書だと、目次をみてタップをしたらすぐにその単元に飛ぶことができて便利でした。紙の教科書だと、パラパラと頁をめくらないといけなかったけれど、ボタン一つで飛んでいきます。

齋藤：紙の教科書だと、マーカーをしたり、書き込んだりするときに、いろいろな色の蛍光ペンや色ペンを用意して、いちいち持ち替えて書き込んでいたけれど、電子教科書だとボタンひとつでペンの色も太さも変えられて簡単でした。

前川：書き込みの話でいうと、マーカーとかペンで書いたことをきれいに消したり、復元できたりできるのは、電子教科書のいい点だと思います。

中嶋：電子だと消すのは簡単ですよね。

前川：それから、中国語の教科書ではボタンを押すと音が出てきて、こういうことは紙の教科書ではできなかったな、と思いました。

■ 実習について

中嶋：実習では、教科書で調べるタイミングがあって、以前はたくさんの教科書を実習先に持参していたのが、電子教科書ではひとつのデバイスで済むようになりました。それから、以前は紙で実習記録を書いていたのが、デバイスで書くようになったと聞いています。実習でデバイスを使うのはどうでした？

齋藤：実習記録ですが、パソコンで打つと時間も短縮されるし、間違ってもすぐ消せるからやりやすかったです。書きながら分からなくなっても、途中まで消したり、文章を組み合わせなおしたりして修正できました。紙だと、全部書き直さなきゃいけないので大変だと思います。

前川：1年生の実習は見学がメインだったので電子教科書はあまり使わなかったけど、学年が上がって、患者さんを受け持つようになると調べることが出てくるから、もっと使うと思います。実習記録は、最初は箇条書きで書いておいて、あとから文章になおして、最後に箇条書きをサッと消す、とかができるのですごい便利でした。

本田：紙で清書するとなったら実習記録を書くのはすごく時間がかかると思います。実習期間は時間がなくて、時には寝る時間を削って記録を書くことがあると先輩から聞いていたので、電子化されて本当によかったです。あとは、あまりないかもしれませんが、漢字のミスなどは変換されるので減ると思います。

政井：先生とのやりとりもパソコンのほうがすぐにできて、先生のコメントもすぐ見えました。先生側も、学生が作業して一時保存とかをすると分かるので学生が作業を進めているかどうかが把握しやすいみたいです。

■ 電子化のデメリット

中嶋：最後にデメリットについて、何か感じていることがあったら教えてください。

本田：さっきのメリットと重なってきますが、漢字の変換とか、思いもよらない間違った漢字が出てくることもあります。あと、だんだん、漢字が書けなくなってくる…頼りすぎて。

学生一同：あぁ、分かる。

本田：あと…個人的に、電子教科書になると勉強した「感」がないです。勉強した「気」にならないっていうか…。

学生一同：確かに！

看護学教育・研究のデジタル化への流れを通して思うこと

学部長　川島 和代

本学の真田学長が看護学教育・研究の DX 化を推進するという方針を示されて早 2 年、学内のあちらこちらで Surface Laptop を開いて学ぶ学部 1・2 年次学生の姿を見かけます。また、課外活動する学生たちが資料をタブレットで示してプレゼンを始めた時、学生の DX 化に向けた機器の活用に関する吸収力と自己の実力化する速さに感嘆しました。分厚いテキストや辞書を何冊も背負って通学する学生の姿は徐々になくなっていくことでしょう。正直こう思います。スマート、おしゃれ、格好いい！

このような教育の DX 化を通して、ひとりの人間を多様な視点からまるごととらえて深い関心を寄せる看護学教育・研究の工夫が始まりました。人体構造や病気からの回復プロセス、認知機能や心理状態を可視化できることは、人間にかかわる看護職にとって大きな魅力でした。われわれは今までの人類の英知の結晶の一つとして、見えない身体や心理状態の内部構造に分け入る（イメージする）ことに力を注いできました。私自身の中で教育・研究のDX化は、見えない領域を可視化し、それを瞬時に共有できるツールとして活用できることが革新となって映るのです。そのような価値がわかるのはアナログ世代だからでしょうか？しかし、真の看護実践力の向上につながるか今後の本学の課題となることでしょう。ぜひ、この目でデジタル世代の看護師の実力のほどを見届けたいなあと願っております。

MY RESEARCH

本学の教員が研究内容を紹介します

教授　石川 倫子
Noriko Ishikawa

看護管理学、看護教育学

●PROFILE
石川県在住。東京医療保健大学大学院看護学研究科博士課程修了（看護学博士）。
金沢医療センター副看護部長、厚生労働省看護研究研修センター主任教官、東京医療保健大学准教授等を経て2021年から現職

住み慣れた街・家で生ききるための在宅療養移行支援

在宅療養移行支援（Transitional Care）とは、患者さんが病気や老いと向き合いながら退院後の新しい療養生活を継続できるよう支援することです。

みなさんは、住み慣れた街・家で最期まで生ききりたいと願っていないでしょうか。私は、奥能登地区にある珠洲市総合病院、市立輪島病院、公立宇出津総合病院、公立穴水総合病院の看護師の方々と在宅療養移行支援の研修会を6年にわたって行っています。その中で、人々が住み慣れた街や家で生ききりたいと願っていることを切に感じています。この願いを実現できるためにどのような在宅療養移行支援が必要なのかを追究しています。

病院から在宅療養に移行する時期に、患者さんとその家族は医療者のもとでの治療中心の療養から、患者さんとその家族の責任のもとでの療養、暮らしの営みの中での療養生活を創り出していくことが求められます。新たな療養生活を築き、継続できるためには当事者である患者さんとその家族が症状を管理していく必要があります。しかし、患者さんは療養生活の中で自分の体を知ろうと模索し身体の変化を感じ取っているが、自己調整できる苦しさであるという自覚から対処が遅れる可能性を抱えていることが明らかにされています。 この患者さんとその家族が感じ取った身体の変化を療養生活と包括的に判断し当事者の視点でマネジメントできる診療看護師（NP）と共有できれば、個々の身体変化を適切に判断し適切な対処につながるのではないかと考えました。そこで、診療看護師（NP）が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発に取り組んでいます。

2024年1月1日に能登半島地震があり、病気や老いと向き合いながら療養生活を避難所や他の地域の医療・介護施設で余儀なくされている方々が大勢いることと思います。その療養者の方々が住み慣れた街で生ききるための在宅療養移行支援にも尽力していきます。

イチオシ！

「崖の上のポニョ」の舞台になった鞆の浦に行きました。坂本龍馬ゆかりの町家の宿の食事処で食べた鯛漬けが最高でした。一度ご賞味ください。

教授　紺家 千津子
Chizuko Konya

成人看護学、創傷看護学

●PROFILE
金沢市出身。金沢大学大学院修了博士（保健学）。皮膚・排泄ケア認定看護師。金沢大学助教授、金沢医科大学教授を経て、2019年より現職。2021年より日本創傷・オストミー・失禁管理学会理事長

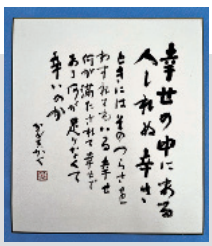
どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ最良なケアの実現に向けて

健康な皮膚とは、適度な潤いと柔軟性があり、傷や痒みなどがない状態です。例えば皮膚に傷ができると、痛みを感じます。傷のサイズが大きく、適切な治療やケアがなされないと治りが遅れ、時には感染し入院となることがあります。また、傷の痛みのために眠れない、食欲がない、仕事に集中できないなど生活の質にも影響を及ぼします。そのため、皮膚の健康が保たれていない状態である褥瘡（いわゆる「床ずれ」）や失禁関連皮膚炎（いわゆる「おむつかぶれ」）などの様々な皮膚障害を予防し、発生時には適切な管理を病院や介護施設、自宅であっても行えることは重要です。

皮膚の健康を保つためには、皮膚障害のリスクをアセスメントし、そのリスクを改善させるケア計画を立案し実施する必要があります。これらは、基本的な看護技術ですが、現在行われている治療による皮膚への影響、理学療法士などの多職種が行っている医療の把握、患者さんとその家族の思いなど、多角的な視点で患者を理解する必要があります。また、効果的なチーム医療を実践するために、看護師には中核的な働きも求められています。ただし、このような高度な皮膚を護るケアを看護師誰もが実施できるとはいえません。その能力を有する看護師としては、皮膚・排泄ケア認定看護師が挙げられますが、在職している施設は限られています。

この課題に対し、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の事業で、私は皮膚裂傷等のベストプラクティスを作成し、看護師の方々に広く最適なケアの方法について知っていただけるよう努めてまいりました。また、本学では今年度より私がセンター長を務める看護キャリア支援センターで、皮膚・排泄ケア認定看護師（B課程）の教育を開始いたしました。しかし、「どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ最良なケアの実現できる体制」には整っておりません。そこで、ICTを活用し、看護師を対象とした皮膚障害の観察した情報をアセスメントする支援に加え、能登北部の被災地も含めた相談支援体制を構築する研究を行っています。

イチオシ！



七尾市の書家で願正寺住職の三藤観映氏による色紙。脳卒中で利き手ではない左手で揮毫。能登半島地震では本堂が被災し、再建に向けての思いが込められています。

EVENT

卒業式・学位授与式
学部74名が卒業、大学院12名が修了

令和5年度の卒業式・学位授与式を3月16日（土）に挙行しました。学部生74名が卒業、大学院生12名（前期課程11名、後期課程1名）が修了しました。真田弘美学長は、コロナ禍や能登半島地震の経験に触れながら、「石川や能登の希望となるよう、自信と誇りを持って巣立ってほしい」と激励し、「人は宝なり」をはなむけの言葉として贈りました。卒業生を代表して中橋奈智さん、修了生を代表して西谷音々さんが学生生活を支えてくれた友人や家族、教職員、実習施設などに感謝を述べました。保護者・ご家族も講堂にて卒業生・修了生の晴れ姿を見届けました。

学部卒業生の言葉 中橋 奈智さん

大学での学びを糧に恩返しを

大学生活は夢を叶えるための大きな通過点であるとともに、人として大きく成長することができた4年間でした。入学直後には、新型コロナウィルスが流行し、思い描いていた大学生活を送ることができませんでした。先の見えない状況が続いていましたが、今自分にできることを模索しながら精一杯努力した経験から、臨機応変に対応する柔軟性を身につけることができました。制限が多い中でも私たちが多くの学びを得られるよう工夫しながら環境を整えてくださった先生方や施設関係者の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。石川県立看護大学で学んだことを誇りに次のステージでも努力を続け、恩返ししていきたいです。

大学院修了生の言葉 西谷 音々さん

助産看護学を幅広く学び、成長できた2年間

大学院では、濃く充実した2年間を過ごしました。実習では多くの母子に関わり、助産師という仕事の素晴らしさや、責任の大きさを実感するとともに、五感を用いた観察の視点や判断を学びました。講義や研究では、周産期だけでなく、全てのライフサイクルにおける女性の健康課題など幅広く学び、広い視点を持つことができました。確かな知識と技術を持ち、温かい心で母子に寄り添い、研究活動を通してより良い助産ケアを導き出せるような助産師を目指し、精進していきます。今までお世話になった全ての方々に感謝いたします。

学長表彰を受けた皆さん

在学時代に顕著な活躍をした以下の皆さんに「学長表彰」が贈られました。

左から、寺田 恵理さん
本谷 明日香さん
中橋 奈智さん
稲實 瑠夏さん
西東 果音さん
松本 美晴さん

EVENT

第24回入学式
学部生85名、大学院生16名が入学

4月4日（木）、令和6年度入学式が挙行され、学部生85名、大学院生16名（前期課程11名、後期課程5名）が入学を許可されました。今年の入学式は、COVID-19蔓延前のそれに戻り、新入生とともに保護者や教職員も同席しました。式辞において、真田弘美学長は4年間の学生生活を、DX・学際・国際性・防災の観点から有意義に学ぶことへの期待を述べました。馳浩石川県知事は、将来仕事の現場で活躍できるよう、共感力・実践力・貢献力を身につけることを激励されました。ご来賓の油野和一郎かほく市長は、地域の健康や生きがいづくりに対する本学学生の貢献と実績への御礼を述べられました。

退職のごあいさつ　令和6年3月で本学を退職した教員からコメントをいただきました。

「Where there is a will, there is a way」～意志あるところに道は開ける～

塚田 久恵　地域看護学講座教授 兼務 附属地域ケア総合センター長

「Where there is a will, there is a way」、私の座右の銘です。
強い意志をもって物事に取り組めば必ず成功する、努力は人を裏切らないというような解釈をすることが多いですが、どんなに強い意志を持っても、どんなに努力しても報われないことも多々あります。大切なことは、目標を定め、あきらめずに挑戦し、努力し続けることだと思います。しかし、時には休憩し、ゆっくり進むことも必要だと思います。私は、石川県職（県庁・保健所の保健師）として長く従事した後、公衆衛生看護学の教員に転身しました。公衆衛生看護活動は、時間がかかり、結果も見えにくいこともありますが、その根気と努力は人々の生活を衛るために不可欠だと思っております。最後に、石川県立看護大学でのお仕事に従事できましたことに感謝し、本学のさらなる発展と、皆様のご健康とご活躍を心より祈念申し上げます。

みんな英語上達したよ！

思い出の1枚

着任して間もなく、2週間の夏期アメリカ看護研修に引率者として参加した経験は、私にとって非常に印象深いものでした。17人の学生を現地まで、教員1人で引率することになり、相談相手がいない中で道中は緊張の連続でしたが、その分ワシントン大学での新たな出会いや研修は忘れられない思い出となりました。

附属施設 INFORMATION

附属図書館

いぷなちゃんの紹介です

図書館のHPにアクセスするといぷなサーチ（IPNU Search）という検索窓があります。そこにいるナイチンゲール（サヨナキ鳥）がいぷなちゃんです。このマスコットは、現3年生の石川真愛さんが考案してくれました。見た目は雀に似ていますが。サヨナキ鳥は西洋のウグイスとも言われ美しい鳴き声が特徴になります。図書館のキャラクターとして登場しましたがイラストは他でも自由に使ってください。検索もしやすくなっていますので、いぷなサーチも利用してくださいね。よろしくお願いいたします。

地域ケア総合センター

FMかほく「月曜なるほどインタビュー」に毎月出演しています

FMかほくの「月曜なるほどインタビュー」は、毎月第３月曜日の17:00から約10分間、本学の教員が出演し、月替わりで健康に関する情報や研究など、さまざまなテーマでお話しています。また、10月には本学の大学祭実行委員の学生さんも出演し、大学祭のPRを行っています。
番組は、パーソナリティ寺西志津代さん（写真左）の爽やかなトークから始まります。インターネットラジオ（https://fm.kahoku.net/）により、パソコンやスマートフォンでもお聞きいただけますので、ぜひ皆様もお聞きください。

看護キャリア支援センター

皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）入学式

令和6年4月3日（水）、日本海側初の特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）を開講し、30名が入学しました。真田弘美学長から、「自施設のみならず時代に即した地域に貢献できる皮膚・排泄ケア認定看護師を目指して欲しい」という激励のお言葉をいただきました。全国から集まった一期生はそれぞれに期待と不安で胸を膨らませながら、共々に皮膚・排泄ケア認定看護師への道へ進んでいくことを誓い合いました。

国家試験の合格状況

令和5年度看護師・保健師国家試験合格状況（第21期生の状況）

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国（新卒のみ）
看護師	74名	74名	74名	100.0%	93.2%
保健師	74名	70名	70名	100.0%	97.7%

卒業生の進路状況

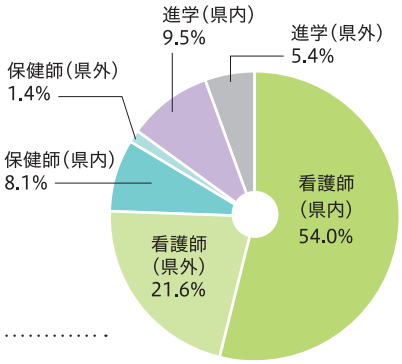
令和6年3月31日現在の就職・進学状況は次のとおりです

〈 県内就職内定・進学先 〉

看護師 石川県立中央病院（21名）、金沢大学附属病院（8名）、JCHO金沢病院（2名）、金沢市立病院（2名）、KKR北陸病院（1名）、石川県済生会金沢病院（1名）、やわたメディカルセンター（1名）、金沢医科大学病院（1名）、白山石川医療企業団（1名）、野々市南ヶ丘病院（1名）、弘和会訪問看護ステーション（1名）

保健師 宝達志水町（2名）、金沢市（1名）、白山市（1名）、志賀町（1名）、石川県予防医学協会（1名）

進　学 石川県立看護大学大学院（助産）（4名）、金沢大学養護教諭特別別科（3名）



〈 県外就職内定・進学先 〉

看護師 国家公務員共済組合連合会虎の門病院（3名）、京都大学医学部附属病院（2名）、富山大学附属病院（2名）、金沢医科大学氷見市民病院（1名）、高山赤十字病院（1名）、国立病院機構災害医療センター（1名）、順天堂大学医学部附属順天堂医院（1名）、横浜市立大学附属市民総合医療センター（1名）、横浜市民病院（1名）、滋賀県立総合病院（1名）、大阪市立総合医療センター（1名）、神戸市立医療センター中央市民病院（1名）

保健師 常滑市（1名）

進　学 新潟大学養護教諭特別別科（3名）、京都医療センター附属京都看護助産学校（1名）

令和6年度　キャンパススケジュール

令和6年度キャンパススケジュールについては下記のとおりです。

前期	夏のオープンキャンパス	7月13日（土）
	補講・試験	7月30日（火）～8月8日（木）
	夏季休業	8月9日（金）～9月30日（月）
後期	授業開始	10月1日（火）
	秋のオープンキャンパス	10月12日（土）

後期	大学祭（看大祭）	10月19日（土）
	冬季休業	12月21日（土）～1月6日（月）
	補講・試験	2月12日（水）～20日（木）
	春季休業	2月21日（金）～
	卒業式・学位授与式	3月15日（土）

石川県立看護大学グローカルはまなす基金

開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローカルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY
看護学部看護学科　大学院看護学研究科

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地　TEL 076-281-8300　FAX 076-281-8319
URL https://www.ishikawa-nu.ac.jp　e-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C013678
VEGETABLE OIL INK
Waterless Printing Naturally
版権は石川県公立大学法人に帰属します